

HOTLINE

日時：2004年12月 6日

場所：東京・霞が関ビル 東海大学校友会館

講演会 「米国大統領選挙と今後の日米関係」

前駐米大使・中央大学法学部教授 柳井 俊二

日米関係は、最良の状態

韓国の対北朝鮮宥和政策に懸念



日本国際問題研究所は12月6日、東京・東海大学校友会館で、柳井俊二・中央大学法学部教授（前駐米大使）を講師に招き、講演会を開いた。

柳井氏は、今回の米大統領選挙結果を詳しく分析した後、ブッシュ政権の対日政策に触れ、「日米関係は今までで一番いい状態だ」と高く評価した。その

うえで、ブッシュ大統領と小泉首相が首脳同士の親密な関係を築いていった映画のエピソードを詳しく紹介。「二人のケミストリー（相性）はぴったり合っている」と述べ、9・11事件以降の対テロ戦争をめぐる日米協力の深まりとともに、首脳同士の信頼関係が高まっている背景を説明した。ただ、第二期ブッシュ政権の陣容については、パウエル国務長官が退任し、ライス新長官が誕生することから、「（強硬派と国際協調派の）バランスが崩れる。金太郎アメのような人ばかりになると、多少、危ないのかなと思う」と語り、強硬派中心の布陣に懸念を示した。また、日米間の外交政策上の不一致点として、ミャンマー問題、環境対策、イラン関係を列挙した。

その一方、韓国との関係については、韓国政府の対北朝鮮宥和政策に強い懸念を表明。将来における朝鮮半島の核武装化の可能性についても言及するなど、厳しい認識を示した。

講演の要旨は、以下の通り。

【選挙結果】

	ブッシュ	ケリー
選挙人獲得数	286	252
獲得州	31	20 (D.C.を含む)
一般投票	約5946万票	約5595万票
得票率	51%	48%

(参考)

前回選挙では、ブッシュ候補は、選挙人271人を獲得した。フロリダ州では637票の僅差で勝利した。一方、民主党のゴア候補は、一般投票ではブッシュ候補を54万票差で上回っていた。

【大統領選挙の分析】

最近の米国の大統領選は、二極化し、固定化する傾向にある。その結果、95%の人々は共和党か民主党に決まっいて、残り5%を選挙の度ごとに奪い合う形になっており、接戦になる。今回、私なりに予想し、ブッシュ候補が勝つだろうと思ったが、こんなに勝つとは思わなかった。その意味で、予測は、はずれた。過半数を大きく上回る286人の選挙人を獲得、350万票差をつけて、ブッシュ候補が勝った。これまでの大統領選で、国際問題が争点になることはなかった。今回は、国際問題が争点になった。戦時下の選挙で、投票率が高くなった点が特徴である。

ブッシュ候補の勝因、ケリー候補の敗因をみると、まず、ブッシュ候補のメッセージの方が単純明快であった、といえるのではないか。正しいかどうかは別にして、非常にわかりやすかった。イラク戦争はテロとの戦いの一環であると割り切った言い方をした。一方、ケリー候補はもう少し複雑な言い方をしている、イラクに対する武力行使は間違っていたと言っていたが、ケリー候補自身、イラクへの武力行使について(上院で)賛成投票していた。共和党はケリー候補の態度は一貫性がない、と突いてきた。ブッシュ、ケリー両候補の個人的性格をみると、ブッシュ候補の方が明るい感じがする。ケリー候補は暗い印象がある。ケリー候補の長い顔は、ホームランを打たれて見上げているピッチャーの顔だ、というテレビ報道もあった。前回の大統領選挙の時、私は米国の政治アナリストの話はずいぶん聞き、もっともらしく東京に報告したが、だいたい、はずれた。彼らもプロだからいろいろ理屈を言うが、「アメリカ人は、最後は好きか、嫌いかで投票する」と言って、リスク回避していた。

主要争点を見ると、ブッシュ候補がイラク戦争をテロとの戦いの一環だと主張したことが効果的だったといえる。イラクがアル・カーイダを支持した証拠があるわけではないが、効果はあった。イラク問題の泥沼化について、ブッシ

ユ批判は強かったが、ケリー候補はこの点を活用できなかった。アメリカ経済は成長を続けており、経済問題が争点にならず、現職に有利だった。社会的価値の問題は、保守的傾向の強い有権者にアピールした。

【新政権の主要政策】

中東問題で打開できれば、歴史に名を残すことができる。八年の任期ではなかなか片づかないかもしれないが、第二期ブッシュ政権は、もっと真剣に取り組むのではないか。

北朝鮮問題では、クリントン政権の米朝核合意について、第一期目は、「北朝鮮にだまされる」と批判的だった。半年間にわたり、対北朝鮮政策の見直し作業を行った結果、米朝核合意を続けるとなった。しかし、北朝鮮側が合意を破ってしまった。ケリー候補は米朝直接交渉を提案していたが、相手が悪いからなかなかうまくいかないのではないかと思う。ブッシュ政権は、北朝鮮への武力攻撃を考えているのではないか、という人がいるが、そう考えている人は政権中枢部にはいない。北朝鮮に武力行使すれば、ソウルが火の海になり、日本にも火の粉が降る。しかし、イランに対しては、米議会の中には感情的になりやすく、厳しい態度を取る人も多い。場合によっては、攻撃を考えている人がいるかもしれない。

中国を重視する姿勢は続くであろう。台湾問題について、ブッシュ、ケリー候補でそんなに違わない。現状維持が望ましいと考えており、政策の根本は変わらないだろう。

【対日政策】

日米関係は、今までで一番いい状態だろう。第二期政権で、日本との人脈がどうなるか、まだ未知数だが、ブッシュ大統領と小泉首相の関係は良好である。2001年6月、大統領別荘のあるキャンプ・デービッドで、初めての首脳会談を行った。初対面の相手なのに、ホワイトハウスでなく、別荘で会ったのは破格の厚遇だと思う。二つ理由があった。前回の大統領選で、クリントン前大統領が中国を訪問したときに日本に寄らなかったことを強く批判したこと、もう一つは、日本の景気低迷を心配していたところに小泉首相が改革を掲げて登場したのだから、じっくり話を聞いてみたい、ということがあった。この会談で、小泉首相は西部劇映画「真昼の決闘」の話をしたことがきっかけで、二人のケミストリー（相性）はぴったり合ってきた。

日米間で合わない点は、まずミャンマー。日本は多少の人道、経済援助をした方がいいと考えている。でないと、中国がどんどん入ってくる。第二に、ブッシュ政権が京都議定書から離脱したこと。排出権取引の話ばかりで、温暖化

対策にあまり積極的でない。イラン問題でも対応が異なる。

【朝鮮半島問題 = 質疑応答】

北朝鮮はバイ（二国間）で話をすると、相手国によっては全部ウソをつく。だから、皆の聞いているところで対話する必要がある。しかし、六か国協議では成果がないのも事実だ。バイと六か国協議の両方があっていいが、アメとムチの政策が必要だろう。核を持った北朝鮮が出現したとき、我々はどうするのか、考えないといけない。また、韓国の現状を心配している。今のような宥和政策をやっても北朝鮮からの見返りは何も出てこない。韓国がウラン濃縮実験をやったことが明らかになったが、これでは、六か国協議に迫力がなくなる。韓国の中には、「北朝鮮は核を持ってもいい。どうせ、韓国には核を使わない」という考えの人が大勢いる。「核を持つ北朝鮮を吸収すれば、韓国も核を持つことができる。それで何が悪い」という人もいる。核に対する考え方が韓国人と我々ではずいぶん違うので、頭の痛い問題である。

（報告： 日本国際問題研究所特別研究員 笹島雅彦）